

# 佐渡学センターだより

佐渡学センター  
(佐渡市教育委員会社会教育課)  
2012年2月29日(水)  
第5号

「おもしろい」「なぜだろう」「調べよう」

—おうい「好奇心」どこ行った—

佐渡学センター次長 本間俊一郎

昨年(23年)、学校が夏休みに入って数名の女子小学生が、自由研究のために両津郷土博物館にきました。祭り(行事)について学習したいとのことで、学芸員の野口敏樹さんが対応してくれました。私は隣でパソコン事務をしながら耳を立てていました(仕事に集中しなさい)島内の祭り(行事)の起源や言い伝え、そして最後に何故このような祭り(行事)が伝わり続いたのか。「お供えをしたご馳走をみんなで食べるのが、一番大切な事で、楽しみであった」今日まで続いていることを説明。実は私もなるほどと納得。

女子小学生が何故「おもしろい」と感じたのか。何を「おもしろい」と思ったかを議論する必要はない。子供達は例外なく「好奇心」を持っている。生命力が横溢している子供は好奇心が強いのか。年をとると「好奇心」が失われていくのか。生命力の差でしょうか。

数日、哀れな気分でしたが「好奇心」という意味は一体何だろう? 「好奇心」とは「奇を好む心」では「奇」とは一体何だろう。日ごろ当然・当たり前と思っ

たり前と思っていることが「当たり前でない」と思う。そこに「好奇心」が芽生えるのではないかな。慣れることは大事なことです、慣れすぎると鈍感な人生を送るのか。

「奇」というのは普通と異なること。珍しいこと。不思議なこと。変わったこと。日ごろの生活の中で「異質なこと」でしょうか。異質と感じなくなれば「住み心地がよい」けれども生きているという実感がなくなる。文明社会のなかで「奇」とは、聞いたこともない音楽・見たこともない形・考えたこともない事象のことでしょうか。「おもしろい」と感じ「なぜ」という疑問。そして「調べる」このことが大事なのであろう。文化・情報は人が生きるための必須条件ではないでしょうか。

文化=好奇心=生命の維持指数。好奇心の持ち主は情報の探求者でしょう。皆さんの「知的好奇心」にこたえられるような博物館にしたいものですが。大いに反省: 気づかないままに好奇心を奪ってしまったのかな。好奇心を発揮する余地を残しておけばよかった! 後の祭り ジ・エンド

いや ザ・スタート!

## 佐渡の自然紹介 すばらしいブナ林の景観

佐渡の山地にブナ林が、今も所々に広がっています。ブナは、腐りやすい上に加工後に曲がって狂いやすい性質があり、用材としては好まれず伐採され、他の木に植え替えられるなどして、純林が少なくなりました。市指定の天然記念物になっている北岳周辺はブナの純林で規模も島内最大です。規模は小さいのですが、白雲台近くから登る妙見山登山道の途中に、きれいなブナの林があります。「ブナの森に水筒はいらない。」と言われるほど、保水力の強い木です。佐渡にとっても、水資源となる大切な森です。ブナ林の林床には、雪国である日本海側特有の植物も見られ、すばらしい景観です。新緑や盛夏の森林浴には、最高の環境です。この自然を、未来まで残したいものです。(池田雄彦)



白雲台近くのブナ林(晩秋撮影)

## 新穂歴史民俗資料館の紹介



新穂歴史民俗資料館は、大野ダム建設事務所であった建物を利用して、昭和55年に開館しました。トキをはじめとして、新穂村に関する資料を中心に考古資料・農具などが収集・展示されていました。これらの資料をさらに有効に活用するため、昭和62年に現在の鉄筋コンクリート2階建ての資料館が建設されました。建物はトキが飛ぶ姿をイメージしたデザインとなっています。

まず1階には、新穂出身の日本画の大家土田麦僊とその弟で文明批評家の土田杏村の貴重な作品や資料の展示

室、また、鬼太鼓や国指定文化財の文弥人形、県指定文化財の説経人形・のろまん人形といった伝統芸能に関する資料などを展示するスペースがあります。

2階には、弥生時代の国指定重要文化財の新穂玉作遺跡や蔵王遺跡で出土した考古資料の展示室と、各種農具や生活用具といったかつて新穂地区で実際に使用されていた民俗資料を展示する部屋があり、新穂地区のそれぞれの時代を感じさせてくれることと思います。

また、受付において裂き織りと勾玉づくりの体験を随時受け付けており、学校での総合学習等でも積極的に活用されています。裂き織りは江戸時代に発展した織物で、当時は布が高価なものであったこともあり、古着などの布を徹底的に再利用するべく考えられた技法です。明治期以降、布は簡単に安価で入手できるようになったため、裂き織りはあまり織られなくなりましたが、現在では古い布を再利用し新たな風合いの布を作るため、芸術的な側面やリサイクルの観点からあらためて注目されています。

12月～2月の間は冬季間ということもあり閉館しておりますが、3月より開館いたします。皆さま方のご来館をお待ちしております。(須藤洋行)

## 事業報告 シンポジウム 佐渡の民俗文化 —語り・芸能・祈り—

平成23年度は新潟大学人文学部と佐渡市教育委員会の連携協定も2年目を迎えましたが、11月3日文化の日に「佐渡の民俗」をテーマとしてシンポジウムが開催されました。

社会の大きな変化により、民話や伝統芸能・風習の伝承が大きな課題となっていることから設定されたテーマです。

まず、午前のプログラムとして、現代社会に息づく佐渡の伝統芸能の中から、春駒(佐渡国草の会・畑野春駒愛好会)、のろまん人形(広栄座)、文弥人形(真野中学校)の発表、また、赤白に伝わる昔話の語り(語り部の会)が行われました。

午後からは、民俗学や民話学、宗教史の第一線で活躍されている3名の方々から基調講演をいただきました。福田アジオ先生(国立歴史民俗博物館名誉教授)からは、民俗学の歩みと柳田国男の佐渡における民俗調査について、常光徹先生(国立歴史民俗博物館教授)からは戦前戦後の佐渡における民話採集について興味深い講演をいただきました。

た。

また、神田より子先生(敬和学園大学教授)からは、神子神楽の背後にひそむ修験の要素について、力強い問題提起をいただきました。

その後は参加者からの質問をまじえ、熱のこもった討論が展開されました。午前・午後の参加者数は約260名に及び、盛会のうちに終了しました。昨年度の「世阿弥シンポ」と同様、多くの市民の方々から佐渡の芸能や民俗を考えていただく好機となりました。新潟大学人文学部との連携を、今後生涯学習全般や学校教育の場にも広げていくことができるよう、佐渡市教育委員会がそれぞれの立場から考えていくことが課題となります。(野口敏樹)



「大勢の方が熱心に講演を聞いていました」

## 文化財散歩道 資料紹介「佐渡一國念仏の記録」

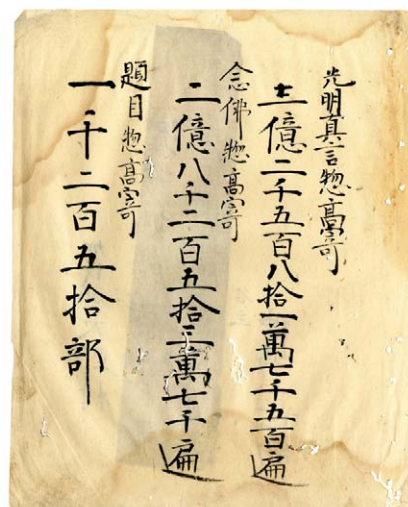
新穂大野の樹林寺(臼木善祥住職)に安政3(1856)年8月に記された一冊の分厚い帳面に伝わっています。表紙には「佐渡鑛山全盛祈念 篤志家芳名録」とあり、加茂郡大野村(当時)の本間伊助が佐渡一國の発起人、同村の市橋善右衛門・仲川六左衛門・安田藤四郎等6名が世話人として記されています。佐渡全島の講中や個人が天下泰平と佐渡金銀山の繁栄を祈り、祖霊を供養する光明真言(ワアガ キヤイ…)や念仏(南無阿弥陀仏)、題目(南無妙法蓮華經)を唱えた、いわゆる佐渡一國念仏の記録です。



安政3年の帳面

通常一つの講中で唱える光明真言や念仏は数百万遍ですが、この帳面の末尾には佐渡一國の累計が記されており、その数は光明真言で約3億2千万遍、念仏で約2億8千万遍、題目で1250部に及んでいます。佐渡の村々が祈りの力を結集した証です。この帳面は、幕末の各地域における講中や寺堂のあり方を示す興味深い貴重な史料です。

佐渡一國念仏はこの前後にも行われたようで、上新穂の管明寺境内には安政5(1858)年の光明真言塔が建立されています。各地の光明真言塔の中では比較



真言・念仏・題目の累計

的大きなもので、光明真言と念仏を合わせて約2億遍に及んでいます。嘉永安政年間は、黒船の来航により鎖国体制が揺らぎはじめ、開国から江戸幕府の滅亡へと続く激動の時代でした。その少し前の佐渡でも、天保年間の百姓一揆

が一國騒動に発展して、越後から鎮圧部隊が派遣され、天下に知られる事件となりました。

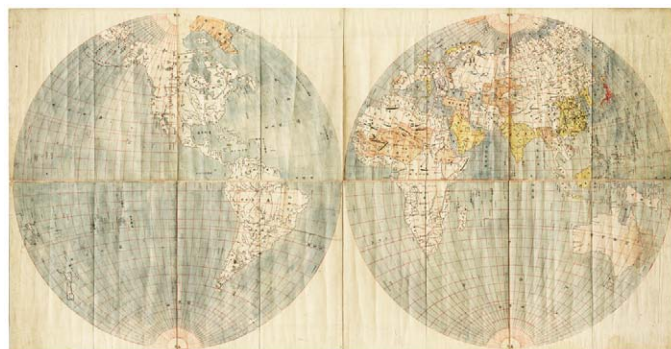
昭和50年代に佐渡の石仏・石塔を独りで実施調査した祝勇吉(故人)の報告によれば、光明真言塔だけで約500基にのぼります。安政3年の帳面に記された各講中の念仏を記した石塔が建立されている可能性があり、管明寺のような一國念仏の石塔が含まれていることも想定されます。

この一國念仏の伝統は、その後の時代を経て現代にまで受け継がれています。加茂歌代の河内公民館背後の市道沿いには、明治20年8月に建立された1億遍の念仏塔があります。加茂歌代郷内の講中によるものです。現在も佐渡の各地域では8月を中心として、観音堂の祭りや、義民・戦没者等の供養として念仏講が続いています。(野口敏樹)

## 寄託資料紹介

## まぐち 嚙口家資料 柴田収蔵「しんせき 真蹟円形世界地図」

「真蹟円形世界地図」は、小木沢崎の嚙口家から寄託された資料です。この世界地図を作成した柴田収蔵は、宿根木出身の蘭方医・地図学者で、1856(安政3)年には幕府の天文方手伝いとなり、翌年には蕃書調所の絵図調出役を命ぜられています。寄託いただいた「真蹟円形世界地図」は、円形の地球儀形式に世界地図を描いたものであり、「新訂坤与略全図」同様、柴田収蔵が日本における先覚的な地図学者であったことがわかる資料です。(滝川邦彦)



真蹟円形世界地図 109 × 56cm

掲示板

ご案内と報告

企画展・行事紹介

企画展のご案内

- ◎佐渡國相川ひなまつり参加企画 ひな人形特別展示  
日 時 平成24年3月1日(木)～3月20日(火)  
場 所 史跡佐渡奉行所跡  
※期間中の3月18日(日) 10:00～15:00には、裏千家淡交会佐渡支部のみなさんがお茶会を開催します。茶会にはどなたでもご来場いただけます。(通常の入館料が必要です)
- ◎裂き織り作品展  
期 間 平成24年3月1日(木)～3月31日(土)  
場 所 相川技能伝承展示館  
料 金 観覧無料
- ◎新寄贈資料公開展  
佐渡を見つめた二人～本間寅雄と持田千秋～  
期 間 平成24年4月1日(日)～6月30日(土)  
場 所 両津郷土博物館

- ◎佐渡植物園展示会 雪割草展  
期 間 平成24年3月24日(土)～3月25日(日)  
場 所 クアテルメ佐渡(佐渡市羽茂飯岡)  
料 金 観覧無料

行事のご案内

- ◎新潟大学人文学部・佐渡市教育委員会連携協定事業「平成23年度 佐渡学セミナー」  
第2回目となる今回は、社会学と地理学から佐渡を考えます。  
日 時 平成24年3月24日(土) 午後1:00～4:30  
会 場 トキのむら元気館(佐渡市新穂瓜生屋)  
講 演 「災害への地域の備えー近年の地震災害と佐渡」  
新潟大学人文学部教授 松井克浩 様  
「地図資料からみた佐渡社会ー明治中期作製の更正図の遺存と保存」  
新潟大学人文学部准教授 堀 健彦 様

寄贈資料紹介

◇「北條家資料」

北條家は、1663(寛文3)年に初代北條道益が越訴の罪で流罪となって来島し、赦免後は金井地区泉に拠点をおいて、明治期まで代々漢方医として地域医療に従事しました。寄贈いただいたのは、北條家の活動や医術系譜を裏付ける新潟県指定有形文化財「北條家医学関係資料」を含む歴史資料です。



永井家資料 佐州相川町絵図(宝暦期のものか?)



北條家資料「医学書」

◇「永井家資料」

代々、当主が地役人として佐渡奉行所に勤務した「永井家」に伝えられたものです。江戸時代前・中期の相川町絵図・墨引き・佐渡奉行所造営関連図面、儒学書写本等を含む古文書・絵図類です。

(滝川邦彦)

編集後記

例年のない大雪も消えつつあり、春の兆しがやっと見られるようになりました。昨年の夏は記録的な猛暑、冬は大雪、地球はいったいどうなっているのかと思わずにはいられません。この2月、佐渡も震度5弱の地震にみまわれました。全国放送された影響もあり、遠方の知人からも心配の電話が幾つか届きました。幸いにも一瞬の揺れで収まり、被害も少なく、安心しました。1年前の東日本大震災を思い出しました。地震国日本、いつ、どこで起きてもおかしくないと言われていています。一人一人が万が一の対応に備えておくことが大切であることを改めて感じました。(池田雄彦)

発行 佐渡学センター (佐渡市教育委員会 社会教育課)

〒952-0021 新潟県佐渡市秋津1596 両津郷土博物館内 電話 (0259) 23-2100 FAX (0259) 23-4820

ホームページ <http://www.city.sado.niigata.jp/sadobunka/denbun/>